

# 元気なトマト産地に向けた生産・販売の支援

南加賀農林総合事務所



産地再編計画の検討会



従来の箱詰め



新しい箱詰め

小松市は北陸最大のトマト産地で、地元市場をはじめ関西市場にも出荷されています。しかし近年、トマト価格の低迷及び農家の高齢化により産地が縮小しつつあり、地元産地では、このままでは産地の維持が難しいという強い危機感を抱いています。このため当事務所では、高品質生産技術への転換や、物流の見直しなどによる農家の所得向上が急務と考え、JA小松市施設園芸部会による「トマト産地再編計画」の作成を支援しました。

この計画では、主に「作り方」と「売り方」の両面について、今後の取り組みを整理しました。

## (1) 安定した生産技術の検討

従来の春作と夏秋作の作型の組合せでは、春作から夏秋作へ作型が切り替わる8月に出荷量が減少し、小売店から小松産トマトが消えていました。また、夏秋作は高温期に栽培することから、着色不良や裂果などの高温障害が問題となっていました。このため本計画では、春作と夏秋作の中間となる作型の検討により安定した出荷を目指すことや、高温障害を回避する遮光・遮熱資材の利用により高品質なトマトの生産に取り組むことにしています。

## (2) 出荷方法の見直し

これまでは、出荷用の段ボールに直接トマトを並べていたため、運搬中にトマト同士が接触し、トマトが傷んで価値が下がる事がありました。このため、果樹などで導入が進んでいる緩衝トレイを使用した箱詰めに切り替えたところ、傷みが減り、市場や仲卸等の流通業者から上々の評価が得られています。

当事務所では、今後も地元農産物の安定供給と農家所得の向上を目指して、このような地元産地の前向きな取り組みを積極的に支援していきます。

問い合わせ先：南加賀農林総合事務所 農業振興部（0761-23-1703）